

## H29 年度全国学力・学習状況調査及び佐賀県学習状況調査結果について

平成 29 年度小城市立牛津小学校

本年 4 月に行われました全国学力・学習状況調査(6 年生)及び佐賀県学習状況調査(5 年生)の結果につきまして、その結果・課題、今後の指導について分析しました。

本校では、その結果を踏まえ今後の授業や教育活動の改善に生かしていきたいと思えます。また、本調査の結果はあくまでも児童の学力の一部を表したものに過ぎません。本校では他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指してまいります。

以下に分析結果を掲載しております。

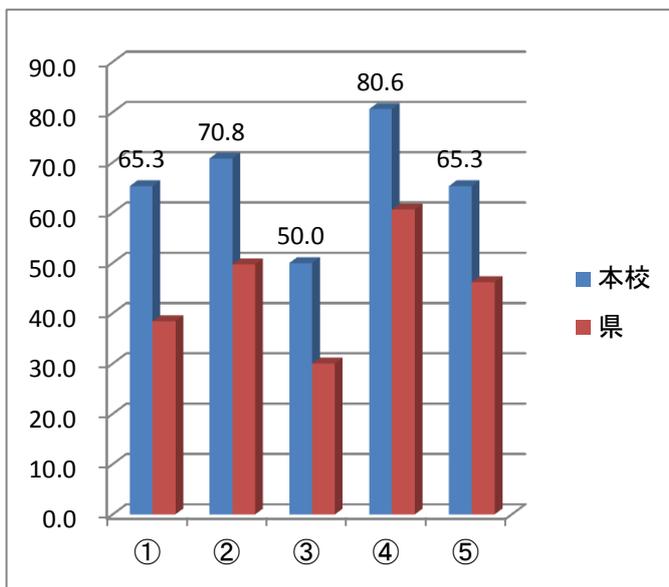
### ◆ 生活習慣に関する「質問紙（意識）調査」から

#### 1. 6 年生調査結果

【 県平均より数値が特に高かった項目 】

①	授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思う
②	学校のきまりを守っている
③	授業では、自分達で課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思う
④	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる
⑤	今住んでいる地域の行事に参加している

「当てはまる」と答えた割合



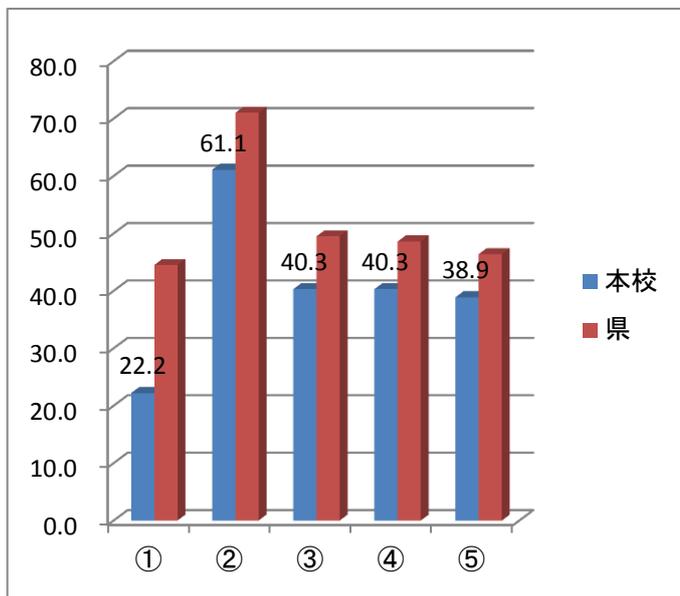
#### ◎分析と取り組み

- ・学校に地域の方や保護者の方が学習ボランティアなど様々な形で関わって下さっていることが子ども達にも良い影響を与えていると考えられる。また、保護者が地域出身の方が多くもある。
- ・子ども達は言われたことを守ろうという意識は高く、授業の中での学び合いや話し合い活動（つぼみタイム）が定着しつつあることがうかがえる。

【 または気になる項目 】

①	地域社会などでのボランティア活動に参加したことがありますか
②	将来の夢や目標を持っている
③	授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う
④	テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか
⑤	家の人と学校での出来事について話しますか

「当てはまる」と答えた割合



◎分析と取り組み

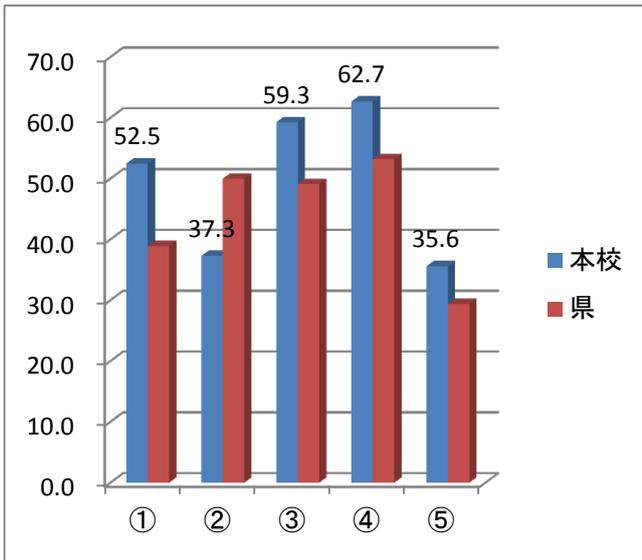
- ・地域のボランティア活動についてよく知らないようで、子どもが認識できる形で設定されていけば参加することが予想されるので、学校・地域（公民館など）の連携を図りたい。
- ・家庭でニュースを見たり、家族と自分のことや周囲のことについて話をしたりする時間的な余裕がないことも予想される。
- ・授業をはじめとした学校生活はもちろんのこと、家庭生活全般でもっと子どもが自分の気持ちや考えを表現する場、聞いてもらう場を作っていくことの大切さを呼びかけていく。

2, 5年生調査結果

【 県平均より数値が特に高かった項目 】

①	理科の授業で、自分で考えたことを図や言葉で表したり、友達と話し合ったりしている
②	普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVD見たり聞いたりしますか。※2時間以上見たり聞いたりしていると答えた児童を合計したもの
③	算数の授業で公式や決まりを習うとき、そのわけを理解するようにしている
③	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たとき役に立つ
⑤	自分で計画を立てて勉強をしている

「当てはまる」と答えた割合



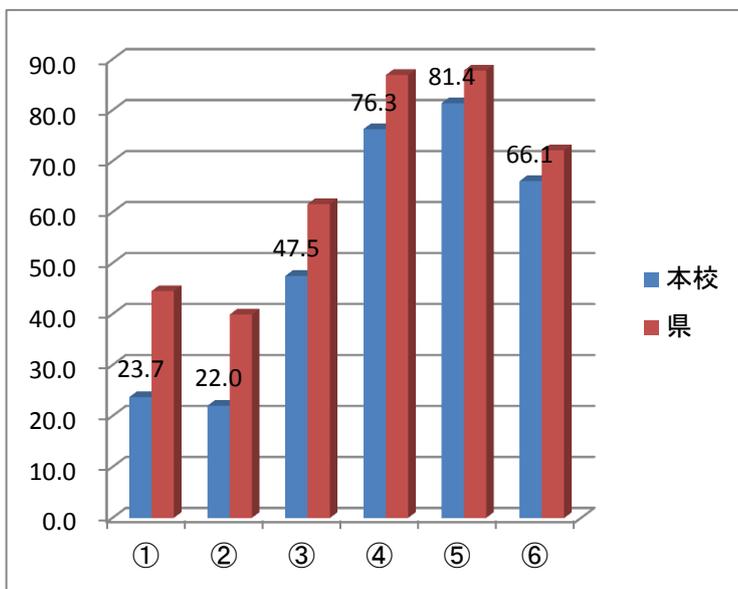
◎分析と取り組み

- ・理科や算数では考えたことを自分なりに表現する事を楽しんでおり、学び合いを好んでいる。
- ・テレビやビデオなどを長時間見る児童は減ってきている。今後も、ノーテレビデー等の取り組みや生活カードでの呼びかけによる意識付けに取り組む必要がある。
- ・計画を立てて勉強している。ただ、その成果がまだ現れているとは言い難いので、継続的な指導が必要である。

【 県平均より数値が特に低かった項目（または気になる項目） 】

①	算数の勉強は好きだ
④	社会の授業で、自分が調べたり考えたりすることをはっきり分かって学習している
⑤	算数の授業で、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている
④	友達に会うのは楽しいと思う
⑤	学校の宿題をしている
⑥	授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていると思う

「当てはまる」と答えた割合



◎分析と取り組み

- ・算数科の授業で解き方や考え方などをノートに書くことは苦手としている傾向がある。そうした苦手意識からも算数が好きな児童の割合が少ない結果につながっていると考えられる。学習展開の中に考えを交流する時間を十分に確保したり、筋道立てて書いているノートの紹介をしたりするなど、指導の工夫をしていくことが必要である。
- ・社会科の授業は子ども達の興味関心を高める工夫や、社会的な課題や学習のめあてを意識させるなど授業の改善が必要である。
- ・各教科の授業全般にねらいを意識させ1時間ごとの学習のまとめを丁寧に扱うなど、授業作りの見直しが必要である。

◆ 平成 29 年度全国学習・学力状況調査 《 6 年生 国語科 》

(全体の概要)

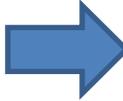
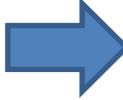
国語全体で見ると県の平均正答率とほぼ同じと言える。「知識・理解・技能」は概ね県平均と同じで、中でも「漢字の読み」は十分達成となっている。しかし、活用問題では、特に「書くこと」、「読むこと」の正答率が県平均をやや下回っており、到達状況でみると要努力となっている。

	分析結果・自校の課題	分析と取り組み
話すこと・聞くこと	<p>△人の考えを整理しながら、聞いたり話し合ったりすることができていない。</p> <p>△場面に応じた話し方ができていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究での友達同士で考えを深め合う「つぼみタイム」の取り組みは有効であると考えられるので今後も進めていく。</li> <li>・スピーチ原稿を練ってから発表することで、より伝わりやすい工夫をさせる。</li> </ul>
書くこと	<p>△目的や意図に応じて必要な内容を整理して書くことができていない。</p> <p>△他者がどう考えているかを説明して書くことが苦手。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習後に生活の中で実際に書かせるような場を設定する。(例：手紙の書き方)</li> <li>・根拠を示しながら自分の意見を書くということを普段の授業の中で取り入れていく。またそれを交流する場を作るようにする。</li> </ul>
読むこと	<p>△資料をよく読んでいない。また、いくつかの資料を関連付けて読むのが苦手。</p> <p>△文章の量が多いととたんに読む意欲がなくなり、あきらめるため、無回答率が高くなっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長文を読みこなす力をつけるために、キーワードに印をつけながら読む習慣をつけさせる。(低学年から)</li> <li>・文章中の根拠となる箇所を示しながら自分の意見を述べることを、更に授業に取り入れていく。</li> </ul>
知識・理解・技能	<p>○漢字の読み・書きはおおむね達成を上回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでやってきた家庭学習や、朝のキラキラタイムでの言葉や漢字についての学習を継続していく。</li> <li>・語彙を広げるため、授業や家庭学習などで国語辞典の活用をしていく。</li> </ul>

◆ 平成 29 年度全国学習・学力状況調査 《 6 年生 算数科 》

(全体の概要)

算数全体で見ると県の平均正答率とほぼ同じである。到達状況でみると「技能」は十分達成となっているが、「考え方」ではおおむね達成を下回っており、活用に関する問題で、文章で答える問題ができていないことから、論理的思考力に課題があることが読み取れる。

<p>数学的な考え方</p>	<p>分析結果・自校の課題</p> <p>△問題の読解力が不足しているため、理解したことを活用することが難しい。 △条件を満たして言葉や数字を使った文章で答えることが苦手である。 △最適なグラフを選ぶ問題ができていない。</p>		<p>分析と取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中で、式や答えだけでなく、解決の過程を図式化したり、文章化したりする学習を日々取り入れていく。</li> <li>・自分の解き方を他者に説明したり、人の考え方を聞いたりして交流する場を設定する。</li> <li>・各学年で系統的にデータに対する適切なグラフの表し方を理解させていく。</li> </ul>
<p>数量や図形に関する技能</p>	<p>○単純な計算の技能はよく身につけており、県平均を上回っているものが多い。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習や朝の「キラキラタイム」での反復練習を繰り返し、更に技能面を高めしていく。</li> </ul>
<p>数量や図形の知識・理解</p>	<p>△三角形の面積を求める問題の正答率が低く、公式の意味理解が不十分と読み取れる。 △長い文章や図、言葉で説明されている問題の意図をとらえきれていない。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・公式を使って計算することだけでなく、図形の見方（底辺・高さなど）を育てる。辺の長さなどの一部の条件が同じで形が違うものなど、多様な図形の問題に取り組む。</li> </ul>

◆ 平成 29 年度佐賀県学習状況調査 《 5 年生 国語科 》

(全体の概要)

全体としては県の平均正答率とほぼ同じである。「知識・理解・技能」は県の正答率とほぼ同じと言える。到達状況でみると「漢字の読み」については十分達成となっている。しかし、「話す・聞く」「書く」「読む」ではおおむね達成を下回っており、特に「話す・聞く」は県の正答率を大きく下回っている。

分析結果・自校の課題		分析と取り組み	
話すこと・聞くこと	<p>△目的に応じて理由や事例を挙げて明確に話す問題ができていない。</p> <p>△聞いた事項を元に進行にあわせて発言することができていない。</p>	<p>→</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理由をつけて発言させたり、友達の発言を自分の考えと比べながら聞かせたりするなど、話し合う活動を十分に取り入れる。</li> <li>友達同士で考えを深め合う「つぼみタイム」では「何を話すのか」「理由や根拠は何か」など話す内容を十分に整理させて話し合わせる。</li> </ul>
書くこと	<p>△書こうとすることの中心を明確にするために「理由や事例を挙げて書く」という条件が満たせていない。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>要旨をとらえきれず、理由付けができていない。授業の中で要旨をまとめさせ、条件をつけて書かせるといった指導が必要である。</li> </ul>
読むこと	<p>△叙述をもとに、登場人物の気持ちの変化をとらえることができていないので、無回答率も高くなっている。</p> <p>△目的に応じて中心となる語をとらえることが難しい。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を読みこなせていない。大事な言葉・表現などに気づかせ、それを手がかりにしながら読みを深める学習に取り組んでいく。</li> </ul>
言語事項	<p>○漢字の読み書きについてはおおむね達成している。</p> <p>△ローマ字の読み書きが課題。</p> <p>△故事成語や言葉の意味を知らない。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も「キラキラタイム」等で語彙を増やす取り組みを続けていく。</li> </ul>

◆ 平成 29 年度佐賀県学習状況調査 《 5 年生 算数科 》

(全体の概要)

全体としては県の平均正答率とほぼ同じ状況である。特に「技能」で県正答率を大きく下回り、領域別では「量と測定」に課題が見られる。

分析結果・自校の課題		分析と取り組み
数学的な考え方	△題意が理解できていない。示された情報をもとに読み取ったことを整理して式に表したり、答えの求め方を説明したりする問題の正答率が落ち込んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃から答えだけではなく、図や式、言葉を使って、解決の過程や解決の根拠を書かせるようする。</li> <li>・問題文の分析力をつけさせるために分かっていることや問われていることを箇条書きにさせる。</li> <li>・自分で筋道立てて考える習慣をつけるために、時には全体での「解決の見通し」を立てる時間を少なめに子どもに考えさせる。</li> </ul>
数量や図形についての技能	△小数のかけ算での計算ミスが多い。 △分度器で角度を読みとった上で計算して求める問題ができていない。 △基本的な単位換算（長さ）やそれを使って面積を計算することができていない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「キラキラタイム」や家庭学習などの課題で整数・小数の計算を繰り返し取り入れ定着を図る。また、小数点の移動などについて、その意味とつなげながら理解を図る。</li> <li>・量と測定の領域は学習しているときは理解できていても、時間がたつと忘れやすいので、学習を振り返る掲示物や定期的に家庭学習などで取り組む。</li> <li>・基礎的な四則計算練習については、低学年から繰り返し徹底する。</li> </ul>
数量や図形に関する知識・理解	△小数の数のしくみ、基本的な単位換算（長さ）が理解、定着できていない。 △分配法則、結合法則の理解ができていない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数の仕組みについては、低学年の時から数の構成・位取りなどの意味理解を中心に丁寧に繰り返し指導していく。</li> <li>・計算の工夫の学習では単に練習問題をこなすだけでなく、その便利さや有用感を感じさせるよう、実生活での活用を取り上げるなど指導を工夫していく。</li> </ul>